

氏名

月 日

/5問

■ 高木さんのクラスでは、興味を持ったことについて調べて文章にまとめることになりました。次の【高木さんがまとめたもの】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【高木さんがまとめたもの】

わたしは、外国(注)の寓話(ぐわ)である「イソップ物語」に古文のものがあることを知り、興味を持ったので調べることにした。

「イソップ物語」は、動物や虫などが出てくる短い話を集めた物語集で、「カラスとキツネの話」などが知られている。「カラスとキツネ」の話は、肉をくわえて木に止まっていたカラスを見たキツネが、その肉を奪(うば)うために、カラスに、

「とても美しい声をお持ちだ。ぜひその声を聞かせてほしい。」

と頼(たの)む。気を良くしたカラスが一声鳴いたとたん、口の肉が下に落ちてしまい、キツネは肉を奪うことができたという内容である。この話からは、いくらほめられてもすぐに信じることなく、身を引きしめていなければならないという教訓を学ぶことができる。このように、「イソップ物語」は、動物の話の中に人間に対する教訓を盛りこんだ、たとえ話を集めたものでもある。

まず、この物語になぜ古文のものがあるのかを図書館で調べてみた。そして、キリスト教の宣教師によって日本に伝えられたのが最初で、江戸時代になって漢字仮名交じりの本、「伊曾保物語」として出版され、たくさんの人に読まれるようになったからだということが分かった。

次に、長い間この物語が語り継がれてきた理由となる、この物語が持つ特徴(とくちょう)について考えてみた。

一つは、物語の構成が単純で、内容が非常に分かりやすいことだ。一つ一つの話が短く、すぐに読み終えることができる。また、一つの話に登場する生き物も少ないうえ、動物などを用いた分かりやすいたとえ話になっており、小さな子供にもすぐに理解できる内容である。

もう一つは、物語によって示される教訓が、現代でも十分に通用するということだ。「カラスとキツネの話」にしても、「ほめられることがあっても、図に乗ることなく、身を引き締めること」という教訓は、現代でも通用するものである。これは、人間の基本的な性質は、どの時代もほとんど変わらないということを示していると思う。

このように、わたしは物語の特徴を通して、この物語が語り継がれている理由について考えてきた。この物語には本来、前半に作者の伝記が含まれているようなので、ぜひそれも読んでみたいと思う。

(注) 寓話＝教訓や風刺(ふうし)を織りこんだ物語。

